

2021 年度上期のファンド動向

Short Review
2021 年 12 月

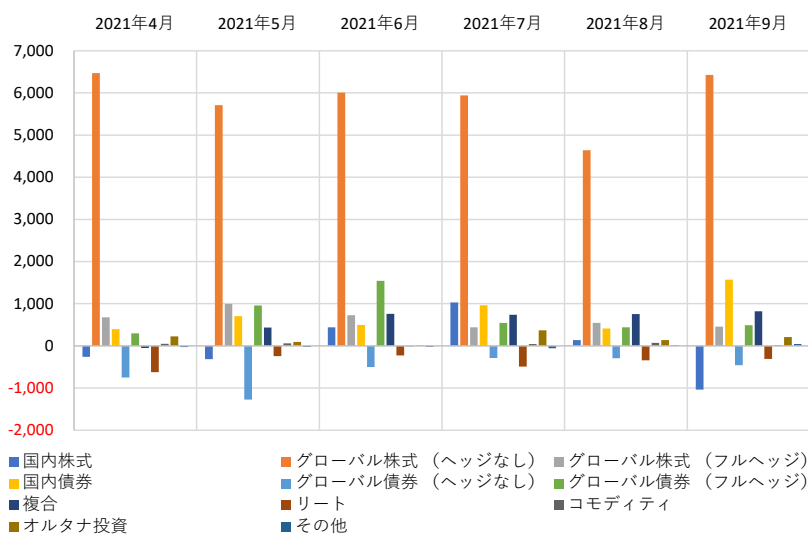
資産運用研究所
後藤 孝輔

1. はじめに

2021 年度上期（4 月～9 月）の株式市場は、新型コロナウイルスの感染状況に一喜一憂しながらも、ワクチンの接種進展による経済正常化への道筋が徐々に見えてきたことから、多くの市場で最高値を更新するなど力強い動きとなった。国内の ETF を除く公募追加型株式投信（以下、ファンド）の純資産総額は、2021 年 3 月末から 7.1 兆円増加し、2021 年 9 月末時点で 81.9 兆円に達した。さらに、動向を日興大分類（以下、分類）別¹でみると、上期は「グローバル株式（ヘッジなし）」に 3.5 兆円もの資金が流入し、純資産総額は 2021 年 9 月末時点で 31.3 兆円と、全体の約 38%を占める（図表 1）。一方で「リート」、「グローバル債券（ヘッジなし）」は上期すべての月で資金流出した。

また、ファンド別でみると、上期すべての月で「アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 D コース毎月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型」が資金流入額 3 位以内にランクインし 7 月～9 月は首位であった。なお、「アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信」は A～D の 4 コースあり、その純資産総額合計は 2021 年 9 月末時点で 2.3 兆円まで拡大している。

図表 1 2021 年度上期（4 月～9 月）の資金流出入額（億円）



（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

¹ 日興リサーチセンターが独自に定めたファンド分類のこと。すべての国内籍追加型株式投資信託を対象とし、目論見書の記載事項をベースに、投資対象、投資地域、運用方針、投資手法に着目して分類を行っている。

次に、2021年度上期、分類別のファンド騰落率に着目すると、「コモディティ」、「リート」、「グローバル株式（フルヘッジ）」が好調であった（図表2）。特に「コモディティ」の上昇（+12.37%）は、経済活動の正常化期待から世界の石油需要予測は上方修正された一方で、石油輸出国機構（OPEC）とロシアなどの非加盟産油国で構成する「OPEC プラス」が増産を見送ったことから、需給のバランスが取れていないことが要因と考えられる。

ファンド別でみると、「コモディティ」で騰落率が最も大きかったのは、原油先物に投資する「UBS 原油先物ファンド」（+27.50%）であった。また、エネルギーだけでなく穀物や貴金属、畜産などに投資する「DWS コモディティ戦略ファンド（年1回決算型）Bコース（為替ヘッジなし）」（+22.36%）も好調であった。「リート」では、「ドイチェ・グローバルREIT投信（ブラジルリアルコース）（毎月分配型）」（+22.90%）等、上位には、REITへの投資と新興国通貨の為替取引を合わせたファンドが多く見られた。「グローバル株式（フルヘッジ）」では「サイバーセキュリティ株式オープン（為替ヘッジあり）」（+24.35%）が最も上昇した。

図表2 2021年度上期（4月～9月）の騰落率²（月末基準）

日興分類	2021年4月	2021年5月	2021年6月	2021年7月	2021年8月	2021年9月	上期
国内株式	-2.16%	0.80%	1.71%	-2.51%	2.87%	4.35%	4.92%
グローバル株式（ヘッジなし）	3.52%	1.27%	2.44%	-1.41%	1.65%	-1.57%	5.98%
グローバル株式（フルヘッジ）	5.20%	-0.01%	2.44%	0.76%	1.89%	-3.34%	7.01%
国内債券	0.19%	0.11%	0.07%	0.42%	-0.08%	-0.29%	0.42%
グローバル債券（ヘッジなし）	1.30%	1.69%	0.51%	-0.64%	0.15%	-0.29%	2.73%
グローバル債券（フルヘッジ）	0.65%	0.29%	0.39%	0.48%	0.15%	-0.80%	1.17%
複合	1.11%	0.88%	0.98%	-0.00%	0.99%	-0.43%	3.58%
リート	3.94%	1.39%	3.39%	1.39%	0.96%	-2.85%	8.38%
コモディティ	5.27%	5.45%	-2.16%	2.88%	-1.06%	0.51%	12.37%
オルタナ投資	1.73%	0.96%	0.98%	-0.28%	0.36%	-1.16%	2.92%
その他	-0.52%	0.09%	0.03%	-1.13%	0.71%	1.22%	0.36%

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

² 値は該当ファンドの騰落率の単純平均で算出。

2. 『まちまち』の4月

世界各地で新型コロナウイルス変異株の感染拡大が懸念される中、欧州を筆頭にワクチン接種率も増加し、経済活動再開の期待は徐々に高まってきた。引き続き、財政拡張と金融緩和が下支えとなり、米国株式市場はハイテク株を中心に上昇し、NYダウ、S&P500指数、ナスダック総合指数の主要3指数は史上最高値を更新する場面が見受けられた。欧州のFTSE100指数も前月比4%弱上昇した。一方、日本国内では、新型コロナウイルス感染拡大第4波を受け、月初めにまん延防止等重点措置が適用され、月末には3度目となる緊急事態宣言が発令されるなど、日経平均株価は3月末に比べると約400円近く下げて終わった。

当月のファンドの純流出入額の合計は6,409億円であり、資金流入の大半を「グローバル株式（ヘッジなし）」が占める形となった（図表3）。ファンド別では、当月に新規設定された社会課題解決への寄与が期待され、破壊的イノベーションを起こし得る世界の企業の株式を投資対象とする「グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド」が歴代3位の当初設定額（2,860億円）となり、「グローバル株式（ヘッジなし）」を牽引した（図表4）。

また、騰落率をみると、「コモディティ」の上昇が目立っており、エネルギーだけでなく穀物や貴金属、畜産などに投資する「DWS コモディティ戦略ファンド（年1回決算型）」のA、Bファンドがそれぞれ+7.76%、+6.77%と好調であった。

図表3 2021年4月のデータ（億円）

	純資産総額	前月からの増減	純流出入額	1ヵ月の騰落率
国内株式	89,210	-2,378	-262	-2.16%
グローバル株式（ヘッジなし）	282,955	17,509	6,471	3.52%
グローバル株式（フルヘッジ）	34,344	2,705	679	5.20%
国内債券	32,622	444	396	0.19%
グローバル債券（ヘッジなし）	77,570	-413	-751	1.30%
グローバル債券（フルヘッジ）	33,031	374	297	0.65%
複合	123,529	912	-49	1.11%
リート	72,585	1,538	-621	3.94%
コモディティ	3,377	191	48	5.27%
オルタナ投資	19,807	602	228	1.73%
その他	1,339	-43	-28	-0.52%
合計	770,370	21,441	6,409	—

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

図表4 2021年4月資金流入額上位ファンド（億円）

No.	ファンド名称	1ヵ月流入額 （億円）
1	グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	2,924
2	イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド	531
3	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型	408
4	eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）	392
5	デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド	321

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

3. 『不安定』の5月

当月の米国株式市場では、12日に発表された4月の消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったことで、インフレの加速や金利の上昇が懸念され、これまで世界の相場を牽引してきたハイテク株の利益確定売りが相次いだ。金融政策正常化に舵を切ることによって、リスク資産からの資金流出の懸念もあったが、米連邦準備理事会（FRB）は金融緩和の維持姿勢を示し、米長期金利の上昇が一服したことから、月末に向けて株価は持ち直した。また日本の株式市場においても、緊急事態宣言の延長や海外株式市場の主要ハイテク株の急落により、当月の日経平均株価は一時29,000円台から27,000円台まで2,000円超下落したが、月末に向けて持ち直した。

当月は野村ファンドラップのリバランスの関係もあり「グローバル債券（ヘッジなし）」から大幅に資金流出した（図表5）。ファンド別では、前月に引き続き「グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド」、「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド」などへの資金流入が堅調であった（図表6）。

また当月の騰落率をみると、前月に引き続き「コモディティ」が好調であった（+5.45%）。「コモディティ」に分類されるファンドの中でも、ゴールドの騰落率が高かったことが特徴的であった。

図表5 2021年5月のデータ（億円）

	純資産総額	前月からの増減	純流出入額	1ヵ月の騰落率
国内株式	89,589	379	-314	0.80%
グローバル株式（ヘッジなし）	286,456	3,502	5,712	1.27%
グローバル株式（フルヘッジ）	34,677	333	996	-0.01%
国内債券	33,346	723	703	0.11%
グローバル債券（ヘッジなし）	77,088	-481	-1,272	1.69%
グローバル債券（フルヘッジ）	34,041	1,010	960	0.29%
複合	124,800	1,270	437	0.88%
リート	72,706	121	-244	1.39%
コモディティ	3,647	270	61	5.45%
オルタナ投資	19,989	182	91	0.96%
その他	1,316	-23	-25	0.09%
合計	777,655	7,286	7,105	—

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

図表6 2021年5月資金流入額上位ファンド（億円）

No.	ファンド名称	1ヵ月流入額 （億円）
1	野村ファンドラップ債券プレミア	1,299
2	グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	722
3	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投資Dコース毎月決算型（為替ヘッジなし） 予想分配金提示型	558
4	eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）	391
5	イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド	327

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

4. 『切り返し』の6月

当月の米国株式市場は、FOMC（米連邦公開市場委員会）が市場の予想より早く利上げに動く可能性を示唆したことにより、中旬にかけて株価が急落する場面があったものの、FOMC後のFRBのパウエル議長が「雇用が好調過ぎるとの考えや、インフレの兆候への警戒を理由に予防的に利上げすることはない。」と発言し、投資家心理が落ち着くと、月末にかけては米国を中心に株価は持ち直し、S&P500指数、ナスダック総合指数は過去最高値を更新した。日本国内でもFOMCのタカ派姿勢を受け、一時日経平均株価の下げ幅が1,000円を超える場面もあったが、その後は景気敏感業種が買われたほか、1ドル110円台を突破したことから円安メリット銘柄にとって追い風となった。

当月は、コロナ禍による世界的な低金利環境を受けて、Buy&Hold債券ファンドへの資金流入が目立ち、当月新規設定された「PIMCO グローバル・ターゲット戦略債券ファンド2021-06（限定追加型）」に最も資金流入し（1,207億円）、当月末時点でファンド全体の純資産総額合計が初めて80兆円を突破した（図表7）。また、資金流入が続いている「アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型」の純資産総額は1兆円、A~Dコースの合計は2兆円を突破した（図表8）。

当月の騰落率は、全体としては良かったものの、前月まで2ヵ月連続で5%超上昇していた「コモディティ」は下落した（-2.16%）。

図表7 2021年6月のデータ（億円）

	純資産総額	前月からの増減	純流出入額	1ヵ月の騰落率
国内株式	91,223	1,634	440	1.71%
グローバル株式（ヘッジなし）	304,238	17,782	6,005	2.44%
グローバル株式（フルヘッジ）	36,786	2,109	726	2.44%
国内債券	33,872	526	495	0.07%
グローバル債券（ヘッジなし）	76,613	-475	-503	0.51%
グローバル債券（フルヘッジ）	35,728	1,687	1,544	0.39%
複合	126,502	1,702	760	0.98%
リート	74,602	1,895	-228	3.39%
コモディティ	3,500	-147	-9	-2.16%
オルタナ投資	20,076	87	13	0.98%
その他	1,275	-42	-24	0.03%
合計	804,416	26,761	9,219	—

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

図表8 2021年6月資金流入額上位ファンド（億円）

No.	ファンド名称	1ヵ月流入額 (億円)
1	PIMCO グローバル・ターゲット戦略債券ファンド2021-06（限定追加型）	1,207
2	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型	771
3	グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	511
4	eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）	421
5	グローバルAIファンド（予想分配金提示型）	328

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

5. 『一進一退』の7月

当月の米国株式市場は、金利が低水準であることを背景に、上旬は上昇基調となったものの、デルタ株の感染拡大による景気の先行き懸念が広がったことなどから、中旬にかけて大きく下落した。月末にかけては、4-6月期の好決算への期待などから欧米株式は上昇し、米国の主要3指数は史上最高値を更新した。一方、中国では自国のIT企業への規制強化が嫌気されて株価は下落し、日経平均株価も4回目の緊急事態宣言の発令や新型コロナウイルス感染再拡大により冴えない1ヵ月となった。

当月は、ファンド全体の資金純流入額が9,237億円と、今上期において最も流入した(図表9)。連月、資金流入が続いている「アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信」は、4コース合計の純資産総額が約2.2兆円まで膨らんだ(図表10)。

また、当月の騰落率を分類別で見ると、前月まで8ヵ月連続で上昇していた「グローバル株式(ヘッジなし)」が円高の影響により下落した(-1.41%)。

図表9 2021年7月のデータ(億円)

	純資産総額	前月からの増減	純流出入額	1ヵ月の騰落率
国内株式	89,607	-1,617	1,028	-2.51%
グローバル株式(ヘッジなし)	305,981	1,743	5,942	-1.41%
グローバル株式(フルヘッジ)	37,506	720	441	0.76%
国内債券	34,997	1,125	966	0.42%
グローバル債券(ヘッジなし)	75,685	-928	-285	-0.64%
グローバル債券(フルヘッジ)	36,512	784	545	0.48%
複合	127,182	680	736	-0.00%
リート	74,788	186	-491	1.39%
コモディティ	3,640	140	43	2.88%
オルタナ投資	20,339	263	368	-0.28%
その他	1,183	-92	-55	-1.13%
合計	807,420	3,004	9,237	—

(出所) 投資信託協会より日興リサーチセンター作成

図表10 2021年7月資金流入額上位ファンド(億円)

No.	ファンド名称	1ヵ月流入額(億円)
1	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	992
2	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	445
3	日本超長期国債インデックスファンド(ラップ向け)	432
4	脱炭素テクノロジー株式ファンド	406
5	グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	382

(出所) 投資信託協会より日興リサーチセンター作成

6. 『山場』の8月

当月の米国株式市場は、企業の好決算に加え、米議会上院において5年間で総額1兆ドルのインフラ投資法案が可決されたことなどが支援材料となり、堅調に推移した。またFRBのパウエル議長がジャクソンホール会議にて、テーパリングについて年内の資産買入れ縮小を示唆したものの、利上げに関しては時期尚早との考えを示したことも上昇を後押しした。国内情勢においては、9月の自民党総裁選やその後に控える総選挙など政治イベントの動向により混沌とした様相の中、月末にかけては反発した。

当月は、前月と資金流入額上位2ファンドは変わらず、「アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型」に924億円、「eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）」に404億円の資金流入があった（図表12）。

また、当月の騰落率をみると、自民党総裁選や総選挙の政治イベント等、様々な思惑がある中、「国内株式」が2.87%上昇し、個別ファンドでみると「IPOリサーチ・オープン」（+10.28%）や、「日本中小型成長株発掘ファンド」（+8.37%）等の新興市場株ファンドが大きく上昇したのが特徴的であった。

図表11 2021年8月のデータ（億円）

	純資産総額	前月からの増減	純流出入額	1ヵ月の騰落率
国内株式	92,504	2,897	135	2.87%
グローバル株式（ヘッジなし）	316,742	10,761	4,640	1.65%
グローバル株式（フルヘッジ）	38,789	1,283	548	1.89%
国内債券	35,381	384	414	-0.08%
グローバル債券（ヘッジなし）	75,157	-528	-294	0.15%
グローバル債券（フルヘッジ）	36,915	402	439	0.15%
複合	128,774	1,592	753	0.99%
リート	74,548	-240	-340	0.96%
コモディティ	3,681	42	71	-1.06%
オルタナ投資	20,690	351	138	0.36%
その他	1,220	37	16	0.71%
合計	824,402	16,982	6,520	—

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

図表12 2021年8月資金流入額上位ファンド（億円）

No.	ファンド名称	1ヵ月流入額 （億円）
1	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型（為替ヘッジなし）予想分配金提示型	924
2	eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）	404
3	GSフューチャー・テクノロジー・リーダーズ Bコース（為替ヘッジなし）	398
4	グローバルAIファンド（予想分配金提示型）	251
5	グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド	248

（出所）投資信託協会より日興リサーチセンター作成

7. 『急展開』の9月

当月の米国市場は月初に S&P500 指数が史上最高値を更新したものの、月後半になると、中国の大手不動産会社、中国恒大集団の債務不履行リスクが、中国株をはじめ世界の株式に影響を与えた。国内においては、菅首相の退陣表明や新型コロナウイルスの新規感染者数の大幅な減少などを受け、8月末から2,000円超の上げ幅で、日経平均株価は一時30,000円台を回復し、TOPIXにおいては約31年ぶりの高値を付けた。

当月のファンド動向は、日経平均株価が30,000円台まで回復したこともあってか、分類別では「国内株式」が4ヵ月ぶりに流出となり、流出額は1,037億円と今年2月以来の規模であった(図表13)。一方、米国株をはじめ、先進国中心に資金の流入が続き「グローバル株式(ヘッジなし)」は6,426億円、「グローバル株式(フルヘッジ)」は456億円流入した。

また、当月の騰落率をみると、前月に引き続き「国内株式」が好パフォーマンスであった。上位には「野村通貨選択日本株投信(ロシアルーブルコース)毎月分配型」(+10.93%)や「野村日本ブランド株投資(アジア通貨コース)年2回決算型」(+8.99%)が並んだ。

図表13 2021年9月のデータ(億円)

	純資産総額	前月からの増減	純流出入額	1ヵ月の騰落率
国内株式	95,217	2,713	-1,037	4.35%
グローバル株式(ヘッジなし)	312,989	-3,753	6,426	-1.57%
グローバル株式(フルヘッジ)	37,253	-1,536	456	-3.34%
国内債券	36,822	1,441	1,569	-0.29%
グローバル債券(ヘッジなし)	74,309	-848	-456	-0.29%
グローバル債券(フルヘッジ)	37,069	154	492	-0.80%
複合	128,394	-380	821	-0.43%
リート	71,772	-2,777	-310	-2.85%
コモディティ	3,701	19	14	0.51%
オルタナ投資	20,658	-32	207	-1.16%
その他	1,300	80	46	1.22%
合計	819,484	-4,918	8,229	—

(出所) 投資信託協会より日興リサーチセンター作成

図表14 2021年9月資金流入額上位ファンド(億円)

No.	ファンド名称	1ヵ月流入額(億円)
1	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	1,127
2	日興FW・日本債券ファンド	837
3	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	494
4	ティール・ロウ・プライス 米国割安優良株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	482
5	グローバルAIファンド(予想分配金提示型)	282

(出所) 投資信託協会より日興リサーチセンター作成

8. おわりに

2021 年度上期（4 月～9 月）の株式市場は、新型コロナウイルスの感染状況に一喜一憂しながらも、経済活動再開の期待から株価は持ち直し、上期を通じてみると概ね堅調に推移した。新型コロナウイルスの拡大に伴い、社会の生活様式が大きく変化する中、昨年度から引き続き、今上期もハイテク株関連に投資するファンドを中心に資金が流入した。上期の資金流入額合計は 9 月末時点で、「グローバル株式（ヘッジなし）」が 3.5 兆円で 15 カ月連続の流入、「グローバル株式（フルヘッジ）」は 3,846 億円で 21 カ月連続の流入であった。騰落率をみると、「コモディティ」や「リート」の上昇が目立った他、インドやベトナム株を主要投資対象とするファンドも好調であった。

世界全体でも新型コロナワクチンの接種完了率は進展しており、今上期では感染状況の改善が見られたインドやブラジル、日本などでも経済活動再開の兆しが見えてきた。今後も新たな変異株の出現などによって、世界経済や金融市場に懸念が広がる場面もあると思われるが、徐々に正常化していくことを期待する。

(END)